

生糸の町前橋を支えた

# 塩原家住宅が国の重要文化財に

※個人住宅のため一般公開はしていません

国文化財保護課

☎027・280・6511

田口町の小高い丘に建つ大きな木造建築、塩原家住宅。12月27日、この塩原家住宅が国の重要文化財に指定されました。阿久沢家住宅、臨江閣に続き3件目の指定です。

明治時代、前橋は生糸の町といわれてきました。塩原家では明治14年頃から蚕種業を開始。蚕を製造、その卵を養蚕農家に販売し、前橋だけでなく県内の蚕種業界をけん引しました。

塩原家住宅は大正元年頃に竣工された建物。「塩原赤」という一大品種を生み出して全国的に名をかせた、初代塩原佐平の居宅兼蚕室として竣工されました。昭和32年には塩原蚕種株式会社の主屋になりました。

1階に居住部分を集約し、2階と3階を養蚕、蚕種製造に特化し

ているのが主屋の特徴。1階には生活空間の他に接客間があり、高価な材料や工夫が取り入れられています。2階3階には広大な空間が、蚕種の交雑防止や雌雄別々に羽化できるように配慮がされた作りになっています。木造瓦ぶきで3階建てのこの主屋は、同様の建物と比べ県内最大級といえます。

敷地内には家柄を示す土蔵や屋敷社の稲荷社、蚕種保護室・冷蔵庫などの建物も。また、蚕種関係の文書も多く残っています。

今回の重要文化財指定では、蚕種製造の特色や工程を伝える一連の建物を残し、高い価値があることなどが評価されました。生糸の町として栄えた前橋ですが、現在はその面影を残すものが減少。塩原家住宅は当時を知るための貴重な場所です。この歴史的価値と記憶を、次世代に残していきます。



玄関に飾られた蚕蛾と繭の彫刻



2階内部。間仕切りの跡や室名札が残っている



写真左の土蔵は内部に火災の痕が残る。稲荷社は本格的な造りで、当時の塩原家の勢いを示す

